

3D関西だより

No. 10 2012.4.22

春の例会を開きました

4月22日(日)春の例会を開きました。会員17名のほかに、大阪都市美展で3D関西の存在を知った中野さんと神奈川の文教大学の広内先生がゲストとして参加されました。広内先生は自作の3D制作ソフトを披露されました。

大阪都市美展以後、3D関西の存在感が増し、3D展覧会やビジネスの相談が来るようになりました。それに伴い、会の運営も、これまでのように会長1人による同好会的な運営では立ち行かなくなると思っていますので、そろそろ会の規約をつくり、役員を定めて、組織的な運営に切り替える必要があります。次の例会に向けて、その準備を始めたいと考えています。

3Dビデオ2台で撮影すると.....

井上さんが下の写真のように、3DビデオTD10を2台並べて撮影する方法を披露されました。こうすると、4つのレンズのうち2つの組み合わせによって、ステレオベースの異なるペアが4通りできることになり、被写体までの距離によって適正なステレオベースを選ぶことができます。井上さんは、以前にもW3を2台並べた装置で、接写からハイパーまでの撮影を可能にする方法を考案されましたが、今回のはそのビデオ版です。例会ではその作品も披露されましたが、見事な桜の映像でした。



軽い木製3Dリグ

3Dの撮影に皆さんはどんな機材を使っておられますか。W1、W3などのデジタルステレオカメラ、2台のデジタルコンパクトカメラ、これらは、重さも軽く、SDMを使えば同期もまあまあです。しかし画質を重視すると、デジタル一眼レフ2台ということになり、長時間の撮影には重さがこたえます。

そんな悩みを少しでも緩和しようと、大林さんが軽い木材でリグを作り、例会で披露されました。

写真はこのリグにLumix GX1を2台つけたもので、ステレオベースは12cmから20cmまで連続的に変えられるようになっています。近接撮影でステレオベースをもっと短くしたいときは、2枚目の写真のように、カメラのボディーが重なるように置くと、ベースが8cmぐらいまで

縮まります。こうすると左右の画像の大きさは少し違いますが、ステレオフォトメーカーの自動補正機能を使えば、かんたんに補正することができます。GX1はズームが段階的に設定されるので、ズーム倍率をそろえるのもかんたんだということでした。



同期に使えるリモコン

一眼レフ2台を同期させるための機材として中国製のワイアレスリモコンがよいと、森さんが報告されました。これは、2台のカメラのそれぞれに受信機をつけ、1台の発信機から電波を送って、同時にシャッターを作動させるもので、森さんの実験では40mぐらい離れていても、作動するそうですから、ハイパーの撮影に便利そうです。



ホームページに投稿を

3D関西のホームページの「会員の作品」のページがあまり更新されていません。川越さんの報告では、このページにアクセスする件数がいっばん多いので、会員の皆さんどんどん投稿してください。